

■同時発表先：岡山県政記者クラブ、倉敷記者クラブ、業界紙（山陽建設通信社、建通新聞社、日刊建設新聞社、建設日報、中建日報社）

地域連携型 要配慮者マイ・タイムライン 作成ヒント集の作成 ～みんなで避難を考えませんか～

平成30年7月豪雨では、多くの方が犠牲になりました。

二度と同じ思いはしないよう、避難行動に支援が必要な方を中心に、隣近所をはじめとした地域の方々や、福祉事業所職員等が一同に集まり、地域連携型のマイ・タイムラインの作成を進めてきました。

このたび、作成のノウハウが蓄積されてきたことから、さらに取り組みを加速化するため、作成ヒント集を作成したのでお知らせします。

要配慮者マイ・タイムライン掲載先

国土交通省

URL <https://www.cgr.mlit.go.jp/takaoda/mytimeline/youhairiyosya.html>

倉敷市

URL <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/36774.htm>

※印刷物が必要であれば、国土交通省高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所までお問い合わせください

【問い合わせ先】

<全般>

国土交通省 中国地方整備局 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

副所長 高橋 泰治 086(697)1020

総務係長 濱田 慎一郎

<福祉事業所の取り組み>

真備地区関係機関・事業所等連絡会（真備連絡会）

小規模多機能ホームぶどうの家真備 代表 津田由起子 086(698)1233

NP0岡山マインド「こころ」 代表 多田伸志 090(4653)1150

<倉敷市の取り組み>

倉敷市防災推進課

課長 渡邊 直樹 086(426)3131

主幹 安原 康雄



がんばろう！倉敷・真備

要配慮者マイ・タイムライン 作成イメージ

マイ・タイムライン（個別避難計画）				作成日：2020 年10月1日	
氏名：真備 一郎		家族（別居）		近所	組織 （会社・施設・ケアマネ等）
住所：倉敷市真備町●●		ふりがな 関係：娘 氏名：倉敷花子 携帯：000-000-0000		ふりがな 関係：近所 氏名：鈴木 携帯：000-00-0000	名称：スマイル福祉事業所
携帯：000-000-0000		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）		ふりがな 関係：近所 氏名：佐藤 携帯：000-00-0000	担当者：橋本
いつもいる場所（昼 自宅 夜 自宅） 避難リュックの置き場所（玄関）		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）	連絡先：000-000-0000
☒ 一人暮らし ☐ 高齢者世帯 ☐ 障害 ☐ 小学生以下 ☐ その他（糖尿病）		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）	
自宅の危険性 ☒ 浸水 ☐ 土砂 ☐ 地震		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）		ふりがな 関係： 氏名：（ - - ） 携帯： （ - - ）	
5 ～ 3 日前	☒ テレビなどで大雨の情報を知る ☒ 薬を余分にもらっておく ☐ 持ち物の確認 ☐ 買い出し ☒ 避難先の確認・連絡	☒ 大雨情報を伝える ☐ 薬を確認する ☒ 持ち物の確認 ☒ 買い出し ☐ 避難先の確認・連絡	☐ 大雨情報を伝える ☐ 薬の準備の声かけ ☐ 持ち物準備の声かけ ☐ 買い出し ☐ 避難先の確認・連絡	☐ 避難可能場所の把握・共有 （L3以前_____） （L3以降_____） ☒ 避難先で必要な物を再確認	
	2 日前	☒ いつ避難するか相談 相談する人（娘）	☒ 避難準備の声かけ（再確認）	☐ 避難準備の声かけ（再確認）	
	1 日前	☒ 家族・近所と避難準備状況を確認 ☒ 避難先を決める 候補 { ・自宅2階 ・▲▲寺（届出避難所） ・●●小学校 ☒ 避難先に行く場合は、大切な物を2階にあげる	☒ 準備状況の確認（電話等） ☒ 避難先を決め、LINEグループに報告 ☐ 自らの避難準備	☒ 準備状況の確認（可能なら訪問） ☐ 要支援者の避難先を決める ☒ 自らの避難準備	☒ 避難準備の声かけ（再確認） ☒ 避難先の報告を受け、主治医等関係機関に情報共有
避難スイッチ（警戒レベル3が発令されたとき）					
4 時間 前	☒ 避難の希望を介助者に伝える ☒ 貴重品の準備 ☒ 荷物を持って玄関で援助を待つ （居室から玄関まで 5 分） ☒ 避難終了	☒ 介助の希望をLINEグループに依頼 ☐ 貴重品の準備 ☐ 車の準備 ☐ 避難開始 ☒ 避難完了を確認（LINE）	☒ 介助の必要性を確認 ☒ 車の準備（1：佐藤、2：鈴木） 花子さんからLINEが来たら、一郎さん宅を訪問し、一緒に避難 ☒ 避難完了を報告（LINE）	☒ 避難完了を確認（LINE）	
2 時間 前	L4 避難勧告・避難指示				

作成者の声



**三宅泰治さん
敬子さん
(要配慮者・家族)**

なりますが、車いすで2階に避難することは、家族だけでは難しいのが実情です。

マイ・タイムラインを作成し、地域の方がいざというときに助けてくれることは本当に心強く感じています。

マイ・タイムラインを地域の方と一緒に作ったおかげで、実際に大雨が降った際、地域の方々に電話で避難を呼びかけてもらったり、そーる（地域の訪問看護事業所）の職員や地元の消防団のメンバーなどが駆けつけてくれて、車椅子の私を2階へ避難させてくれました。

西日本豪雨では自宅の1階が水没しており、大雨が降ると1階にいると心配に



**片岡合さん
(要配慮者)**

もしていました。結果的には、排泄物を部屋の片隅に保管していましたが、ニオイに耐えきれず、避難所に移動しました。

マイ・タイムラインの作成にあたり、近所の皆さんから、何も迷惑にならない、一緒に逃げようと言われ、その言葉が本当にうれしく、逃げて良いんだと言うことを気づかされました。あってはほしくないけど、もし、また大雨が降るようなことがあったら、今度はためらわずに避難しようと思います。

西日本豪雨では自宅の1階が浸水しました。私は高齢者で脚が不自由なので、避難所に行くと、皆さんに迷惑をかけるのではないかと思います、自宅2階にとどまっていました。また、自衛隊が逃げ遅れ者がいないか確認に来ましたが、みつかったら避難所に連れて行かれると思います、隠れたり



**土師みちるさん
(家族)**

識がなく、両親とどのような付き合いがあるのかも分かりませんでした。マイ・タイムラインの作成にあたり、みなさんとお会いさせていただき、両親が元気な頃にお世話になったといった感謝の言葉や、昔の恩返しをしたいのでできるだけ協力したいというような温かい言葉を頂き、本当に嬉しい思いです。

また、連絡先も交換させていただき、緊急時はもちろんのこと、日頃から気になることがあれば連絡してと言っていたので、本当に安心と感謝の気持ちです。

西日本豪雨では両親の家は浸水はしませんでした。が、なかなか連絡がとれず、高齢者のため、福祉事業所の支援がないと通常の生活に支障が生じる状況の中、どうしているのか非常に不安な時間を過ごしました。

当時は両親の隣近所の方々とはほとんど面



**山中幸恵さん
(近所の住民)**

た。私は仕事もしているので、いつでも対応できるわけではありませんが、日常的に声を掛け、いざというときは、一緒に車で避難をしたいと考えています。

ご家族や福祉事業所のケアマネさんと連絡先を交換したので、積極的におせっかいをさせていただきます。

近所に要配慮者がいることは知っていましたが、毎日のように福祉事業所も来ているので、どこまで関わって良いか分からず、余計なことはしないほうが良いのかなとモヤモヤした気持ちでした。

縁あって、マイ・タイムライン作りに関わらせてもらい、別居さ

れている息子さん夫婦から、両親を気にしてもらってありがたい、声を掛けていただけることは大変ありがたいと言っていました。

私は仕事もしているので、いつでも対応できるわけではありませんが、日常的に声を掛け、いざというときは、一緒に車で避難をしたいと考えています。

ご家族や福祉事業所のケアマネさんと連絡先を交換したので、積極的におせっかいをさせていただきます。

作成者の声



津田由起子さん
(小規模多機能ホーム
ぶどうの家真備 代表)

高齢者や要配慮者が大雨や強風の中、避難をすることはとても難しく、警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）が発令されてから避難を開始するのは遅いと感じています。

ぶどうの家では、利用者と一緒にマイ・タイムラインを作成し、家族などと一緒に

に避難できないことが明らかになった人は、迎えに行き、一緒に避難をすることを想定しています。しかし、急激な天候の悪化や夜間など、必ず対応出来るかわからないため、近所の方が避難に協力してくれたり、連絡先を交換させていただき、状況を共有させてもらえることは非常に心強いです。

皆で集まり、顔を合わせながら話をする時間がとても大切だと感じています。



多田伸志さん
(NPO岡山マインド「ころ」代表)

地域の方が障がい者を受け入れ、避難を支援してくれるなど、少し前までは考えられませんでした。今は、障がい者の避難先を、まちづくり推進協議会の方々が相談にのってくれるなど、みんなに温かいまちづくりが復興とともに進んできていると感じています。

地域の協力を無にしないためにも、すべての人が逃げ遅れないよう、できる限りの準備と訓練をしておくことが、責務だと考えており、マイ・タイムライン作りを進めています。

真備が、誰もが住みやすい「まち」として、復興していくためには、すべての人がまちのメンバーとして役割を担う必要があります。マイ・タイムラインはそんな温かいまちづくりに必要不可欠です。



守屋美雪さん
(箭田地区まちづくり推進協議会事務局長)

西日本豪雨では多くの高齢者・要配慮者が被害にあわれました。私達にもっとできたことがあったのではないかなと思うと悔しくてなりません。

たとえ、同じような洪水が発生したとしても、二度と真備から犠牲者を出したくないと思い、マイ

・タイムラインの作成を進めています。

特に、高齢になられた方々は、今でこそ地域との接点が少なくなっている人も多くいますが、昔は、地域活動に積極的に取り組まれたり、子ども達の見守りをしてくれたりと、今の真備をつくってくれた方々です。そういった地域の宝のような方々に、自分が恩返しできるチャンスだと思っています。

マイ・タイムラインの作成を通じて、お世話になった方々と久しぶりに会えるのも楽しみです。



瀬切宏美さん
(呉妹地区民生委員)

真備町は隣近所の結びつきが強い地域なので、西日本豪雨では私も含め、多くの方々が、高齢者等の自宅に避難の呼びかけをして回りました。そのおかげで無事避難ができた人が沢山いた一方、例えば民生委員は多くの高齢者等を担当しており、民生委員だけ

で声を掛けることの限界も感じました。

マイ・タイムラインの作成は重要性は感じていましたが、隣近所を集めたり、計画を作ったりと、とても大変なことをやらなければいけないのではないかと感じていました。しかし、実際にみんなで集まって避難について話をすると、みんな自分事として捉えてくれ、協力的なので難しいことはありませんでした。まずはやってみることが重要です。